

## 作業環境管理における リスクコミュニケーション ー産業医の立場からー

第87回 日本産業衛生学会  
平成26年5月24日(土)

産業衛生技術フォーラム  
『作業環境管理におけるリスクコミュニケーション』

日本ガイシ株式会社  
産業医 中元健吾

1

## 今回の内容

- 弊社（日本ガイシ）の紹介
- 有機溶剤中毒予防規則の改正
- 化学物質のリスクアセスメントについて
- 安全から考えるリスクアセスメント
- 今後の課題

2

## 産業医活動歴

平成17年6月 ヤマハ発動機株式会社  
平成18年6月 黒崎播磨株式会社  
西日本産業衛生会 大分（約20社）  
平成20年6月 日本ガイシ株式会社

3

## 弊社（日本ガイシ）紹介

4

## 日本ガイシの概要

**社名** 日本ガイシ株式会社

**設立** 1919年(大正8年)5月5日



**従業員数** 単独 3,426人 連結 13,159人 2013年3月末現在

**連結会社** 54社（国内21社 海外33社）

日本ガイシ

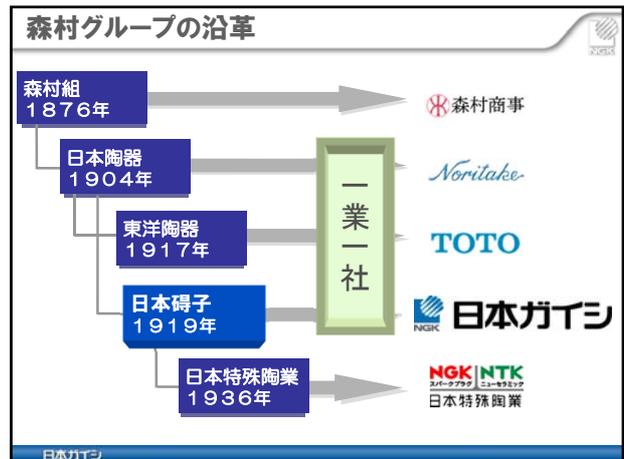
## 日本ガイシグループの海外拠点

海外生産拠点 17拠点【10ヶ国】



日本ガイシ

2013年4月現在



### 有機溶剤中毒予防規則の改正

10

### 有機溶剤中毒予防規則等の一部改正 (平成24年7月)

有機溶剤中毒予防規則の第28条の3、4等へ追加

- 第3管理区分
  - 評価の記録、評価に基づく措置および措置後の評価の結果を労働者に周知
- 第2管理区分
  - 評価の記録、評価に基づく措置を労働者に周知
- 周知の方法
  - ①常時各作業場の見やすい場所に掲示又は備付け
  - ②書面の労働者への交付
  - ③磁気テープ、磁気ディスク等に記録

各作業場に労働者が常時確認できる機器を設置

11

### 周知方法の重要性

- 作業環境測定結果報告書を掲示しても**報告書の理解が難しく**、どのような内容で掲示するかは各事業場で工夫すべきところである
- 『報告書の閲覧』『単位作業場所への区分の表示』が多くの企業の現状と考える

伝達力×理解力  
60%×60%=36%

12

## 化学物質リスクアセスメントについて

13

## 化学物質のリスクアセスメントの実施を義務化

事業者は、安全データシート（SDS）の交付が義務づけられている物質（現在640種類）について、危険性又は有害性等を調査（リスクアセスメント）をしなければならない

化学物質管理に関する相談窓口を開設（厚労省）  
○SDSのリスクアセスメントにおける活用方法

14

## リスクアセスメントの目標は？

- リスクアセスメントの実施が最終目標？
  - 『**リスク低減**』が最終目標のはずだが、  
**多くの企業は『実施すること』が最終目標**
- ※国の企業に対する指摘は実施の有無

15

## 化学物質のリスクアセスメントの手順

### ①化学物質等による危険性又は有害性の特定

作業標準等に基づき、化学物質等による危険性又は有害性を特定するために必要な単位で作業を洗い出し、GHSで示されている危険性又は有害性の分類等に則して、各作業における危険性又は有害性を特定する

- ②特定された危険性又は有害性によるリスクの見積り
- ③リスクを低減するための措置内容の検討
- ④優先度に対応したリスク低減措置の実施

16

## 作業の洗い出しは誰が行うのか？

「**作業者の取組みに対する意識**」  
が重要！

管理徹底型：管理者が作業者に対して**やらせる**（大半）  
自主活動型：作業者が自主的に行う

同じことを行うにしても両者では意識の差が歴然！  
「会社指示だからやるのか？」  
自分の健康のために行うのか？」

17

## 企業の抱える現状

18

## 企業が抱える現状

- SDS・化学物質使用量・作業内容等を『紙上の資料のみ』によって有害性の評価をマニュアルに沿って行っている作業場が多い印象（職場巡視や作業者ヒアリングより）
  - 危険源（ハザード）対策により『危険を察知する感性』『リスクを認識する能力』の低下
- リスクをリスクと認識できない**
- 作業従事者に占める非正規労働者比率の多さによる人材育成不足
  - 設備の大型化・機械化により、リスクが見えにくい
  - 衛生管理者や産業医の化学物質に対する知識・経験不足

19

## 安全から考えるリスクアセスメント

20

## 平成26年度全国労働安全週間

平成26年7月1日から7月7日

みんなでつなぎ

高まる『意識』

達成しようゼロ災害

21

## 安全週間・準備期間中の実施事項

- ①経営トップによる安全への所信表明・職場の安全パトロール
- ②今後の安全を考える職場の集いの開催による関係者の意思の統一及び安全意識の高揚等
- ③作業上の注意喚起の「見える化」
- ④安全旗の掲揚、標語等の掲示、安全関係資料の配布
- ⑤労働者の家族への安全の文書の送付、職場見学等の実施
- ⑥安全についての作文、写真、標語等の募集及び発表
- ⑦緊急時の措置に係る必要な訓練の実施
- ⑧「安全の日」等の設定

22

## 安全週間活動・安全活動の評価項目は？

### 「実施のためのPDCA」

- 安全活動の実施の有無が評価項目
- 実施の改善が改善事項

『何のための安全活動？』

実施率の向上のための活動が最終目標？』

アウトカム評価とプロセス評価の理解不足

23

## 災害報告で目にする発生原因

- 非定常作業でリスクアセスメント未実施
- 作業方法の管理者の把握不足
- 教育不足

### 「管理不足・教育不足」

管理・教育自体の見直しが重要な局面にきている

24

## 日揮の安全活動



『2万人・500日  
延べ1億時間無事故・無傷害達成』

2014年4月9日 日経産業新聞

25

## IIF (Incident and Injury - Free : 無事故・無傷害) 活動

「安全は強制されるもの」ではなく、「自ら選択するもの」という一人ひとりの姿勢・意識の改革を通して、組織(集団)全体に安全文化を構築していく活動

活動の根底にあるもの

『コミュニケーションの活性化』

26

## 日揮における安全活動 (IIF)

- 管理から自発性重視へ
- 安全を求め過ぎたり、管理し過ぎたりしない
- 安全を守ろうという労働者の自発的な意思を引き出すことを重視
- 「なぜ守らない!」から「どうすればいい?」  
答えは自分で出させる
- 「今日も安全に帰宅しよう」と2万人で安全唱和
- 安全を教え込むのではなく、『安全への意志』の引き出し  
『強要する安全』から『自ら選択・共有する安全』への意識改革

27

## 今後の課題

28

## リスクコミュニケーション

『個人、集団、組織間でのリスクに関する情報および意見の相互交換プロセス』

(リスクに関する情報および意見には) リスクの特性に関するメッセージおよびリスクマネジメントのための法規制に対する反応やリスクメッセージに対する反応などリスクに関連する他のメッセージも含む

※米国家調査諮問機関 (National Research Council : NRC) の1989年の報告書

29

## 当事者意識の醸成

- 管理職の目線の高さを**作業者目線**へ
- 作業者の**やらされ感からの脱却**
- 作業者・管理者の**リスク認識の共有**  
管理者目線と作業者目線のレベル合わせ
- 日々の活動の目標の明確化  
実施することが目標ではなく  
**作業環境改善・健康障害防止が目標**
- 作業環境測定機関との連携**によるリスク認識向上  
作業環境改善策の能力向上

30



## 今後の安全衛生活動

『管理型活動からの脱却』

『会社が行う活動』から  
『社員が行う活動』へ

御清聴ありがとうございました